

2022 年 9 月
文部科学省国連教育変革サミット (Transforming Education Summit: TES)
に向けた国際的な動きについて

1. 経緯

新型コロナウイルス感染症拡大により生じた世界的な教育の危機に対応し、SDG 4 (教育) 達成に向けた政治的意思、貢献、活動を加速化させる機会として、国連事務総長のイニシアティブの下、2022 年 9 月の国連総会中に、首脳級の「教育変革サミット」を初めて開催することとなった。

2. 会議の概要及び関連会合

(1) 国連教育変革サミット 【首脳級会合】

- ① 日時： 2022 年 9 月 16 日 (金) ~ 19 日 (月)
- ② 場所： ニューヨーク・国連本部
- ③ 主催： 国連事務総長、事務局：ユネスコ本部
- ④ 内容： SDG4 (教育) の達成のための教育変革に関し、以下の成果を予定。
 - ・各国及び国際的な教育変革へのコミットメント
 - ※各国によるステートメント (文書) の提出
 - ※各国首脳によるスピーチ
 - ・サミット後のフォローアップを含む議長サマリーの発出

(2) 国連教育変革サミット “プレ会合” 【大臣級会合】

- ① 日時： 2022 年 6 月 29 日 (水) ~ 30 日 (木)
- ② 場所： パリ・ユネスコ本部
- ③ 内容： ユネスコ事務局の主催により開催された国連教育変革サミットの準備会合。我が国からは義本文部科学次官が出席し、ステートメントの検討状況の発表等を行った。(別紙 1)

※2 名の国家元首、154 ヲ国の大臣・副大臣・次官級を含め、1,800 名を超える政府・国際機関・研究者、NGO 等からの出席があった (オンライン含む)。

(3) ユネスコ・アジア太平洋教育大臣会合 【大臣級会合】

- ① 日時： 2022 年 6 月 5 日 (日) ~ 7 日 (火)
- ② 場所： バンコク
- ③ 内容： 新型コロナウイルス感染症による教育の危機を克服し、アジア太平洋地域の SDG4 (教育) 達成を加速させるための優先行動領域や戦略、求められる行動等を示した大臣宣言 (バンコク宣言) を採択 (別紙 2 及び別紙 3)

※ユネスコ・バンコク事務所の主催により SDG4 (教育) に関してアジア太平洋地域における連携協力を議論する大臣級会合。

※文部科学省ユネスコ信託基金により開催。

※アジア太平洋地域の大臣等 24 人を含め、400 名を超える政府、国際機関、研究者、NGO 等からの出席があった (オンライン含む)。

3. 国連教育変革サミットのテーマ

新型コロナウイルス感染症による教育危機からの回復と SDG4 達成のための教育変革。サミットでは、5つのテーマを設定し、テーマごとにどのような取り組みを推進していくのかについて方向づけることを予定。

- 1 誰も取り残さない安全・安心な学校 (Inclusive, equitable, safe and healthy schools)
- 2 生活、仕事、持続可能な開発のための学習とスキル (Learning and skills for life, work and sustainable development)
- 3 教師、教育と専門性 (Teachers, teaching and the teaching profession)
- 4 デジタルラーニング (Digital learning)
- 5 教育投資の確保 (Financing of education)

国連教育変革サミット・プレ会合について

1. 日程 6月29日(水)～30日(木)

2. 出張者 義本文部科学事務次官等

3. 会場 パリ・ユネスコ本部

4. 概要

- 本年9月、国連のグテーレス事務総長のイニシアティブにより、各国首脳の出席の下で国連教育変革サミットが開催される予定である。9月のサミットを控えて、今般、国連及びユネスコの主催による同サミット・プレ会合(大臣級)が行われた。本会合にはオンラインを含め2名の国家元首及び154カ国の大臣・副大臣・次官級が参加した。日本からは末松文部科学大臣の代理として義本事務次官が出席し、大臣級ラウンドテーブルにおいて、我が国における教育変革に向けた議論の進捗状況についての演説を行った。
- 大臣級ラウンドテーブルにおいては、義本事務次官から概ね以下の発言を行った。
 - ・ コロナ禍や気候変動、権威主義の台頭など地球規模課題に直面する中で、普遍的価値を全ての人々が共有し、行動することが求められている。岸田政権が目指す「新しい資本主義」やその核となる「人への投資」といった理念は、SDGs達成につながるものであり、ESDの考えとも重なるもの。
 - ・ 日本においては、着実に国内諮問の進捗を進めており、ユースも含めて様々な意見を聞きながら、国連から求められている「首脳ステートメント」の作成に取り組んでいる。
 - ・ ステートメントにおいては、「誰一人取り残さない教育の実現」のために、①「こども家庭庁」の設置、②教育のデジタル化、③奨学金制度の拡充に取り組むこと、「教育の質の一層の向上」のために、知・徳・体のバランスのとれた発達を目指す日本の学校教育をこれからも大切にするとともに、STEAM教育の充実や大学におけるグローバル人材育成に取り組むこと、などを盛り込んでいく方向で検討中。
 - ・ 日本として、国内だけでなく教育支援を通じた国際社会への貢献も含めて、ウェルビーイングの実現に向けて取り組んでいく。



会場の様子



義本事務次官による演説

ユネスコ・アジア太平洋教育大臣会合について

1. 日時：令和4年6月5日（日）～6月7日（火）（於：タイ（バンコク））

2. 出張者：岡村国際統括官 等

3. 会合概要

(1) APREMC High Level Segment (6月6日(月)～7日(火))

① オープニングセレモニー（文部科学大臣ビデオメッセージ）

・タイ教育大臣、ユネスコ・バンコク事務所長、ユニセフ東アジア・太平洋地域事務所長による歓迎の辞の後、タイのシリントーン王女より開会が宣言された。



・冒頭発言として末松文部科学大臣からのビデオメッセージとして、新型コロナウイルス感染症による教育の危機への対応における、「学校の意義」、「デジタル教育」、「ESD」、「教員の資質向上」及び「高等教育の質の向上」について日本の取組を発信するとともに、アジア太平洋地域における国際協力強化の重要性について表明。

② 大臣ラウンドテーブル

・大臣ラウンドテーブルは、
テーマ1「学習の回復と学習危機への対応」
及び
テーマ2「教育システムの変革」に分かれて
同時開催。



日本は、テーマ2において日本の状況を発表した。

・テーマ2概要

- 参加国：オーストラリア（オンライン）、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インドネシア、モルディブ、ネパール、フィリピン、スリランカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本

（ビデオ参加：ブータン、ブルネイ、北朝鮮、インド、マレーシア、韓国）

- 以下4つ各議題について各国より意見表明。

- Q1. 国の教育システムが、さらに公平で、包括的で、柔軟で、将来起こる危機に対して強靱なものになるためには、どのような制度の変化や変革が必要か。拡大したい、もしくは基礎にしていきたい優良事例や教訓は何か。
- Q2. 教育危機に対応し、学習者に対して、急速に変化する社会と経済で、暮らし・働くための能力を育むために必要な指導と学習の変革（例：カリキュラム、教授法、教員研修、政策等）は何か。
- Q3. 教育の変革を起こすために、どのように国内資金を増やし、さらに効率的で公平な財源の分配を確保しているか。革新的な教育の資金調達制度の成功事例、予算実行のガバナンスと効果の改革にかかる成功事例は何か。
- Q4. 教育と教育システムの変革にかかる主要な優先事項は何か。

- 日本からは、Q1 及び Q3、Q4 について発言。
具体的には、教育における ICT 活用の重要性や給食の福祉的な役割等について述べるとともに、日本の主要な優先事項として、ESD の推進をはじめ、教育のデジタル化や教員の資質向上等について発言した。

③ バンコク宣言の採択について

- ・ 各国等から修正意見が提案されたため、必要に応じ反映させる条件付きで、バンコク宣言の採択が合意。後日送付された最終版のバンコク宣言の概要は別紙3のとおり。
- ・ なお、バンコク宣言のドラフティンググループにおいて「多くのアジア諸国が抱える債務危機への対応に向けて、税収制度の立て直しや教育予算の増加を強調したい」との意見が提案されたが、債務危機はアジア太平洋諸国の共通の課題ではなく SDG4 実現に向けて債務危機は附属的な要件であること等を理由に日本から削除意見を出し、削除が反映された。

(2) その他

- ・ アジア太平洋教育大臣会合の専門家会合（6月5日）において、吉田和浩広島大学教授が日本のESDの取組についての説明を行った。
- ・ 6月6日）の本会合中のユースプレゼンテーションにおいて、日本ユネスコ国内委員会次世代国内委員会のメンバー（細谷優希氏）が、オーストラリア及びマレーシアの参加者とともに、my education, my future をテーマに発表を行った。